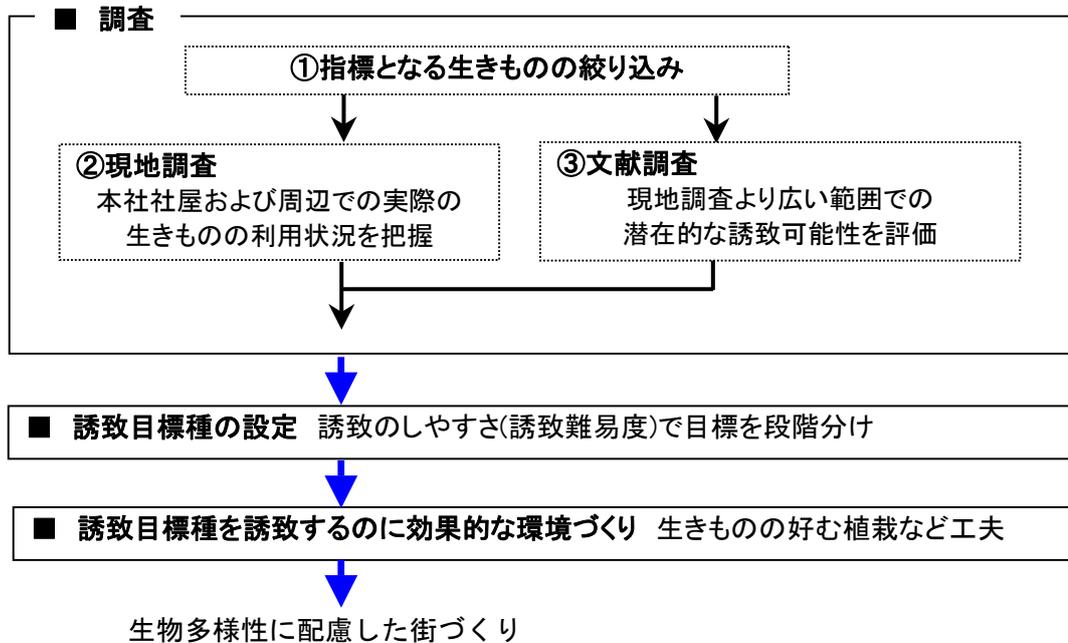


銀座地区周辺 生きもの調査報告 ダイジェスト版

1. 調査の目的

大都市では緑地どうしが孤立してしまい、大緑地と別の大緑地との間、また、大緑地と周辺の小緑地との間で生きものの移動が制限されていることが多い。今回、資生堂本社ビルに計画されている屋上緑化が、生きものにとっての緑地間ネットワークを創出する一歩となれば、将来的には銀座全体が「生物多様性に配慮した街づくり」へ向かう可能性もある。そこでまず、屋上緑化でできることを探るため、銀座周辺の大小の緑地で生きものの現状を調べた。
(調査協力:株式会社竹中工務店、株式会社地域環境計画)



2. 調査方法

①指標となる生きものの絞り込み

ビオトープ※の環境への反応が明瞭で、定量的なデータが得やすい上、一般的に親しまれており、かつ確認が比較的容易な生きものを対象にした。ただし、昆虫類については、訪花するハチ類やハナアブ類、バッタ・コオロギ類のように大型で目立つ種も記録することにした。

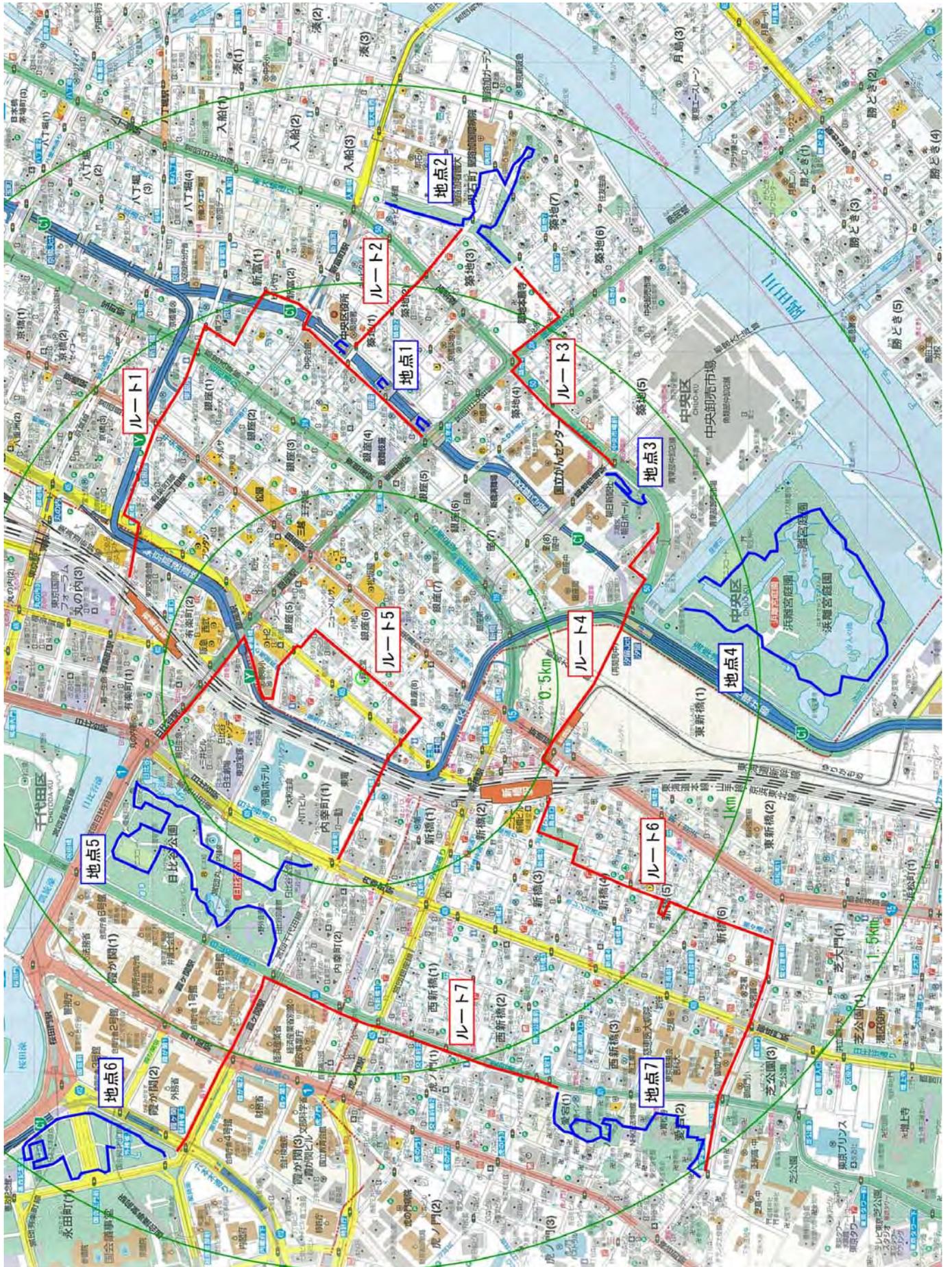
※ビオトープとは、動植物が生息している場所という意味。

図表① 各指標生物の一般的な特徴

生きもの群		移動距離	特徴
鳥類		長	・生態系で上位に位置することが多い ・昆虫類に比べると行動範囲が広く、緑地のネットワークを必要とする
昆虫類	トンボ	短～長	・幼虫(ヤゴ)が生息するための水域が必要
	チョウ	長	・幼虫の餌(植物の葉)と成虫の餌(花の蜜など)が必要 ・緑地の面積より餌の有無に影響される
	セミ	長	・樹木が必要
	バッタ	短	・草地が必要

②現地調査

本社社屋の周辺約1.5kmの範囲にある緑地、緑地間を結ぶ街路樹の多い道路を調査対象とした。緑地内では樹林、草地、水辺といった環境を網羅するようにルートを設定し、道路では道路沿いにルートを設定した。(図表②) 調査はルートを時速2km程度でゆっくり歩いて行い、目視で確認された鳥類・昆虫類の種名・個体数・行動を記録した。



図表② 調査地点、ルート

地図使用承認©昭文社第 12E039 号

各地点、ルート概要は下記のとおりである。

<地点>

地点1 首都高速緑地

- ・水場はないが、街路樹とほぼ同様の規模の樹林を利用する鳥類や昆虫類、花壇を利用する訪花性昆虫類の確認が期待できる。

地点2 聖路加国際病院周辺緑地

- ・植栽高木の樹林を利用する鳥類、草地に生息するチョウ類、小規模な水域に飛来するトンボ類などの確認が期待できる。

地点3 朝日新聞社前広場

- ・人工的な水場があり、そのような水場をトンボ類が利用するかどうか確認できる。また、植栽のアベリアが広がり、市街地に生息する訪花性昆虫の確認が期待できる。

地点4 浜離宮庭園

- ・広い池が複数存在し、樹林や草地など、様々な環境が見られる。また、広い花壇も有する。水鳥をはじめとして、様々な環境に応じた鳥類、水域に生息するトンボ類、草地性のバッタ・コオロギ類とともに、草花を吸蜜するチョウ類が多く確認されると期待できる。

地点5 日比谷公園

- ・池が2箇所存在するため、水鳥やトンボ類が飛来・生息していると期待される。また、樹林、草地、花壇など、様々な環境が見られるため、樹林性、草地性の種とともに、吸蜜するチョウ類が多く確認されると期待できる。

地点6 国会前庭

- ・小規模な草地が存在し、樹陰のある池があるので、様々な種の確認が期待できる。

地点7 愛宕神社周辺緑地

- ・神社周辺のため、安定した常緑樹林のほか、小規模な水場が見られることから、様々な種の確認が期待できる。

<街路樹帯(ルート)>

- ・基本的に上記地点1～7の緑地をつなぐように、街路樹が多い箇所を通るルートを設定した。
- ・ルートは市街地を利用する種の確認を目的としている。飛んで移動する個体とともに、訪花する昆虫の確認も期待される。

③文献調査

本社社屋の周辺の文献記録を整理し、周辺における鳥類相、昆虫相を把握した。そして、本社社屋に来訪する可能性のある種をリストアップした。(文献は中央区、千代田区、港区のものを使用)

3. 生きもの調査の結果

<概要>

◆銀座周辺の2大緑地、日比谷公園(地点4)と浜離宮(地点5)

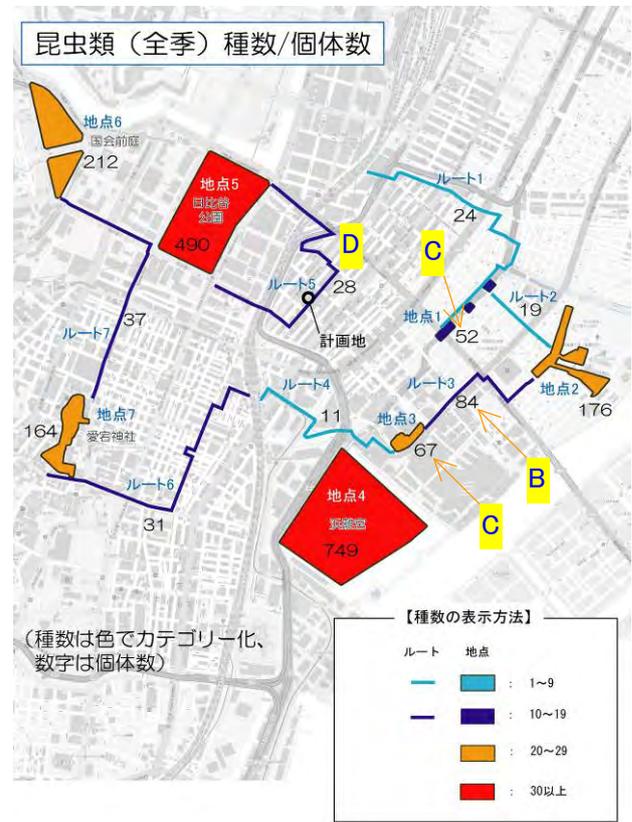
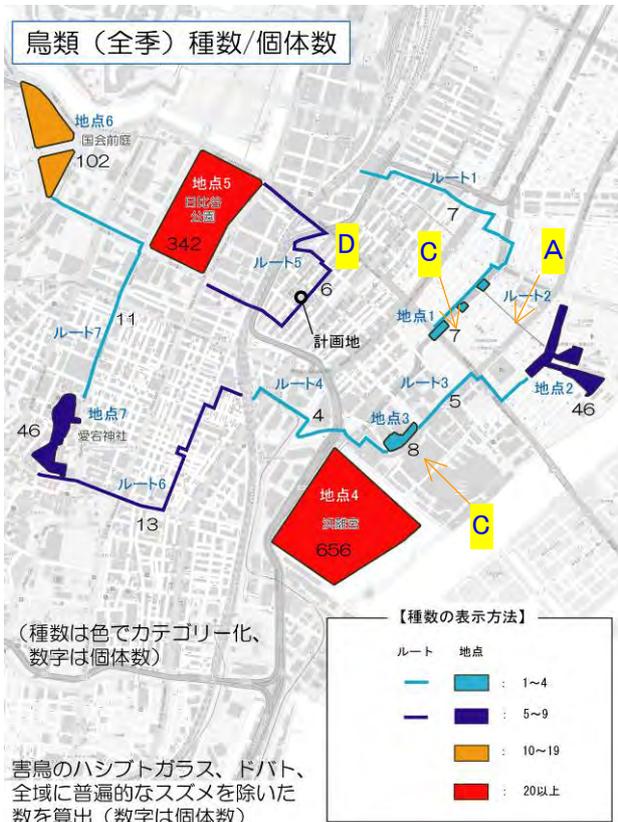
- ・鳥類、昆虫類とも、地点4、5の種数・個体数は、他の地点・ルートに比べて非常に多い結果となった。
- ・これらの大緑地において、鳥類や昆虫類の繁殖(鳥の営巣、昆虫の産卵・交尾)や採餌が確認された。
- ・それ以外の街路樹帯や小緑地には生きものが繁殖するための環境が少なく、生きものにとって大緑地は周辺への供給源、周辺からの避難場所となっていると考えられる。
- ・鳥類では、水鳥(カモやサギなど)の多くが、広い水域のある地点4のみで確認された。
(⇒ 水鳥は広い水域が必要)
- ・トンボ類は、水中や水際に植物がある地点4、5の種数・個体数が、それ以外の地点・ルートより多くなった。
(⇒ トンボ類は植物の生えた池を好む)

◆街路樹帯(ルート)は種数・個体数とも少なかった

- ・鳥類では、都市で害鳥となっているハシブトガラス、ドバト、都市に適応しているスズメを除くと、ルート2のように確認0のところもあった。(⇒A)
- ・しかし、ルート3は昆虫類の個体数が他のルートよりも多くなった。これは、他のルートよりも植栽植物の花が多く咲いており、花の蜜を吸う昆虫を集めていたからである。(⇒B 訪花昆虫にとっての吸蜜植物の重要性)
- ・地点1、3はルートとほぼ同様の種数であった。また、確認された種の顔ぶれもほぼ同様である。これらの地点は地面が舗装され、緑地の幅が狭く、環境的にはルートと同様であったと考えられる。(⇒C)

◆銀座周辺は生きものの利用頻度が低い、将来的には増える可能性がある

- ・これらの2大緑地に挟まれていた銀座周辺は、現在、生きものの利用頻度が低い結果となった。(⇒D)
- ・しかし、現在は生きものにとって「都市砂漠」状態であっても、周辺に大緑地があるということは、生きものが増える大きな可能性があるともいえる。



(c)OpenStreetMap contributors, CC-BY-SA <http://www.openstreetmap.org/>
<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/2.0/>

4. 誘致目標種の設定

本社社屋周辺で見ついている箇所数が多いほど、その種は地域に普通な種であり、本社社屋にも誘致されやすいと考えられる。そこで、今回の調査と文献記録での確認地点数から、「誘致のしやすさ」を判定した。

■「誘致のしやすさ」を判定する方法(鳥類の例)

鳥類		今回の調査での確認地点数		
		多	中	少
		ほぼ確実	可能性あり	難しい
文献記録での確認地点数	多	ほぼ確実 ヒヨドリ メジロ	可能性あり キジバト ハクセキレイ シジュウカラ	難しい ツグミ
	中	可能性あり	可能性あり コゲラ カワラヒワ オナガ	難しい キセキレイ ウグイス センダイムシクイ キビタキ
	少	難しい	可能性あり	難しい ヤマガラ

注1) 赤字は銀座周辺(ルート5)で確認されている種

<対象外とした種>

- ・広い水域が必要な水鳥や広い緑地が必要な猛禽類。
- ・ハシブトガラス、ドバトといった害鳥や、スズメ、ムクドリといった都市に適応した種。
- ・ツバメは採餌に広い飛翔空間が必要で、営巣は高層ビルの屋上のように高い場所では行わないため、誘致目標種から外した。
- ・昆虫類では、要注意外来生物、長距離移動種(偶然に左右されるため)、生息地からの移動が困難と考えられる移動性の低い種。



以上

このレポートの著作権は、株式会社資生堂に属します。
ダウンロードして自由にお使いいただけますが、部分的な抜粋や改変はご遠慮ください。